

## 1) 著作権保護のための表示

-----  
当報告の内容は、それぞれの著者の著作物です。

Copyrighted materials of the authors.  
-----

## 2) 研究会基本情報

-----  
タイトル:「バントゥを縦にみる:言語記述と類型論への通時的視点の導入 (jrp000292)」  
(2024年度第1回研究会)

日時:2024年5月25日(土曜日)午後2時より午後5時

場所:AA 研小会議室(304)およびオンライン会議室

### 1. 古本真(AA 研ジュニア・フェロー)

「プロジェクトの背景と見通しの共有」

### 2. 梶茂樹(AA 研フェロー)

「コンゴ・スワヒリ語の幾つかの特徴—スワヒリ語 micro-variation 調査に関連して—」

### 3. 全員

全体討論  
-----

本研究課題の2024年度第1回研究会は、上記日時において6名(対面3名+オンライン3名)の参加者を集めてハイブリッド形式で開催された。本課題は、バントゥ諸語類型論をテーマとした過去の課題(「バントゥ諸語のマイクロ・バリエーションの類型的研究1,2」)の後継に位置付けることができる。過去のプロジェクトは、パラメーター駆動型類型論という、近年のバントゥ諸語研究のトレンドに則って展開されてきたが、バントゥ諸語のバリエーションを十分に把握しきれていないという問題や、それぞれの言語の複雑な情報を(必要以上に)捨象しているという問題を抱えていた。最初の発表「プロジェクトの背景と見通しの共有」では、まず、こうしたプロジェクト立ち上げの背景を確認した。そして、言語変化に関する妥当な仮説をおくことにより、これまでの方法論の課題を克服できる可能性があることを共有した。

二つ目の発表「コンゴ・スワヒリ語の幾つかの特徴—スワヒリ語 micro-variation 調査に関連して—」では、コンゴのキブ地方のスワヒリ語変種の特徴を概観した。そのうえで、パラメーター駆動型類型論で提案された各パラメーターの妥当性や有効性について検討した。これら二つの発表の詳細については、次ページ以降の資料を参照されたい。

全体討論では、今後の具体的な研究テーマについて話し合った。具体的には、コンピュータ動詞の用法のバリエーション、名詞分類に関わる特徴、バントゥ諸語間にみられる摩擦音の体系的な違い、ツォンガ語の地域ごとのプロソディの違いなどが候補となる。

文責:古本真

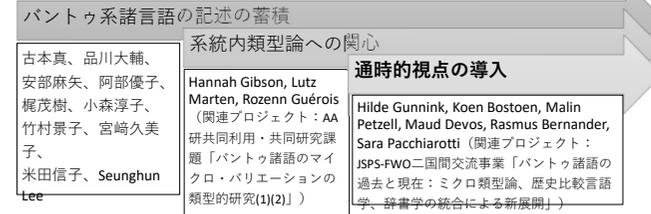
# プロジェクトの背景と 見通しの共有

AA研共共課題「バントゥを縦にみる：言語記述と類型論への通時的視点の導入」  
2024年度第1回研究会（2024年5月25日）  
古本真

## 本研究課題立ち上げの経緯

1. 日本国内のバントゥ諸語研究者のコミュニティの維持・発展
2. 海外の研究者との協働関係の維持・発展
3. バントゥ諸語の**言語記述とバリエーションに対する理解の深化**（歴史言語学はメインテーマではありません！）

（参考：審査会で提示した概念図）



## 「通時的視点」について

- 言語というものが、絶え間なく変化し続けていると考えると、言語の記述は、その変化の過程の一場面を切り取る行為と見立てることができる
- 言語変化に一定の普遍的な傾向があるとするならば（例：文法化）、言語変化に関する仮説たてることで、
  - **記述的観察や言語内／間のバリエーションを整理できる**のではないか
  - より妥当な形で（少なくとも自分にとって）**未知の言語の潜在的特徴を予測できる**のではないか

cf. Guérois, R., H. Gibson & L. Marten. 2017. Parameters of Bantu morphosyntactic variation: Draft master list. Alpha version. Leverhulme Project 'Morphosyntactic Variation in Bantu: Typology, contact and change'. SOAS, University of London.

## 通時的視点からの記述、分析の事例

- 事例1：スワヒリ語マクンドゥチ方言の指示詞縮約形
- 事例2：スワヒリ語マクンドゥチコピュラ動詞

## マクンドゥチ方言の指示詞縮約形

- 指示詞は三系列
- 指示対象の位置と名詞クラスに応じて形が異なる
- 近称と中称には基本形に加え縮約形がある

	近称		中称		遠称
	基本形	縮約形	基本形	縮約形	基本形
cl1	yuno	=yu	uyo	=yo	yulya
cl2	wano	=wa	wao	=o	walya
cl3/11	uno	=u	uo	=o	ulya
cl4/9	ino	=i	iyoy	=yo	ilya
cl5	lino	=li	ilyo	=lyo	lilya
cl6	yano	=ya	yayo	=yo	yalya
cl7	kino	=ki	icho	=cho	kilya
cl8	vino	=vi	ivyo	=vyo	vilya
cl10	zino	=zi	izo	=zo	zilya
cl17	kuno	=ku	uko	=ko	kulya
cl16	vano	=va	avo	=vo	valya
cl18	muno	=mu	umo	=mo	mlya

5

## 指示詞縮約形の特徴

- 基本形と異なり述語の前に現れる名詞句と同じ対象を指せる (1)
- 基本形と異なり修飾用法をもたない (2)
- 基本形と異なり接語として直前の語に依存する (3) (4)

- (1) a. mwalimu yuno ka-Ø-ja=**yu**  
1.teacher DEM.PROX.1 SM1-PFV-come=DEM.PROX.1  
b. \*mwalimu yuno ka-Ø-ja **yuno**  
1.teacher DEM.PROX.1 SM1-PFV-come DEM.PROX.1
- (2) a. m-Ø-m-ono mwalimu **yuno**  
SM1SG-PFV-OM1-see 1.teacher DEM.PROX.1  
b. \*m-Ø-m-ono mwalimu=**yu**  
SM1SG-PFV-OM1-see 1.teacher=DEM.PROX.1
- (3) a. tu-na-(ku-)nywa maji  
SM1PL-IPFV-無-drink water  
「私たちは水を飲む／飲んでいる」  
b. tu-na-\*(ku-)nywa  
SM1PL-IPFV-無-drink  
「私たちは飲む／飲んでいる」
- (4) a. ka-na-ja vano  
SM1-IPFV-come DEM.PROX.16  
b. \*ka-na-ja=**va**  
SM1-IPFV-come=DEM.PROX.16  
c. ka-na-ku-ja=**va**  
SM1-IPFV-無-come=DEM.PROX.16

6

## 指示詞縮約形の特徴

述語の前の名詞句が指示詞近称を含む場合、近称の縮約形が述語に後続する；述語の前の名詞句が指示詞中称を含む場合、中称の縮約形が述語に後続する

- (5) a. baskeli ino i-Ø-bomok{=i / \*=yo}  
9.bicycle DEM.PROX.9 SM9-PFV-break=DEM.PROX.9 / =DEM.MED.9  
「この自転車は壊れている」  
b. baskeli iyo i-Ø-bomok{=yo / \*=i}  
9.bicycle DEM.MED.9 SM9-PFV-break=DEM.MED.9 / =DEM.PROX.9  
「この自転車は壊れている」

7

## 指示詞縮約形と「主題」との関連

- 指示詞縮約形は**述語の前に現れる名詞句**と指示対象を共有できる
- 指示詞縮約形の使用は、指示対象が主題である場合に限られる

- (6) mwalimu yuno nyi-Ø-m-ku<sup>h</sup>u=**yu**  
1.teacher DEM.PROX.1 SM1-PFV-OM1-meet=DEM.PROX.1  
「私はこの先生に会った」(目的語)
- (7) kajengwa nyi-Ø-okoto embe=**ko**  
17.Kajengwa(PN) SM1SG-PFV-pick\_up mango(es)=DEM.MED.17  
「カジェングワで私はマンゴーを拾った」(場所)
- (8) wakati a-Ø-o-vyaligwa mwanangu ny-evu mji-ni=**o**  
11.time SM1-PFV-REL11-bear.PASS my\_child SM1SG-PST.COP town-LOC=DEM.MED.11  
「私の子供が生まれたとき、私は街にいた」(時)
- (9) yuno mwanak<sup>h</sup>ele baskeli yake i-Ø-bomoko=**yu**  
DEM.PROX.1 1.child 9.bicycle his.9 SM9-PFV-break=DEM.PROX.9  
「この子供は、彼の自転車が壊れている」(所有者)

8



## コピュラ動詞の記述の整理

- 場所述語はコピュラへと変化する通言語的傾向がある
- コピュラ動詞の漸次的用法の拡大を想定すると、マクンドゥチ方言のコピュラ動詞の特徴が通時的視点からまとめられる (Furumoto 2015; 2022)
- コピュラの使用の随意性や人称の制限は変化の途上にあることを示唆する特徴として理解される (言語変化の中間段階の特徴としての把握)

コピュラ動詞の用法拡大に関する仮説



## 言語間のバリエーションの予測と把握

- 予測: この仮説の通りの変化の傾向があるとするならば、マクンドゥチ方言より前/後の段階に位置付けられる特徴をもつ言語があるはずである
- 同源のコピュラ動詞のほかのバントゥ系言語における用法

場所: マオレ語、マテング語\*, マコンデ語

場所 + 状態: マクウェ語、スワヒリ語トゥンバトゥ方言

場所 + 状態 + 属性: ンデゲレコ語

場所 + 状態 + 属性 + 同定: マンダ語

(14) マテング語 (米田2000)

**a-bí** pa-ŋũmba dʒãngu  
SM2-be.PRF LOC-house my  
「彼らは私の家にいる」(場所)

(15) マクウェ語 (Devos 2008)

**a-w-elé** tayáali  
SM1-be-PFV ready  
「彼(女)は用意できている」(状態)

(16) ンデゲレコ語 (Ström 2013)

**a-bii** mundu ŋgói  
SM1-be.PFV 1.person old.person.1  
「彼は年老いた人だ」(属性)

(17) マンダ語 (Bernander 2017)

íli lí-y-íli líhimba  
this.5 SM5-be-PRF 5.lion  
「これはライオンだ」(同定)

## 言語間のバリエーションの予測と把握

言語変化を想定することで、バントゥ諸語の場所述語やコピュラの記述や対照のための妥当な「参照点」が提示される

- 場所叙述でどのような形式が使われるか
- 場所述語が状態、属性、同定の叙述でも用いられるか
- 非場所叙述用法に人称の制限はあるか (例: 1, 2人称のみ)
- 場所述語はほかの動詞と同様に活用するか etc.

- 従来の枠組みでは見過ごされていたバリエーションの把握
- 既存のバントゥ諸語類型論の枠組みの問題の顕在化

## パラメター駆動型類型論との関連

- パラメター駆動型バントゥ諸語類型論の理念と目標 (Marten et al. 2007など)
  1. バントゥ系言語が、具体的にどの程度類似しているか/異なるのかを知りたい
  2. 必ずしも自明ではないパラメター間の連動関係を浮き彫りにする
- (個人的に) この理念や目標に異論はないが、
  - 各パラメターが必ずしもバントゥ諸語のバリエーションを把握するのに最適化されていない
  - 各言語の複雑な情報が類型論的議論のなかで単純化されている (還元主義の問題)
- 言語変化に関する仮説を導入することでこれらの問題解決の糸口が得られるのでは  
 参考: Van de Velde, M. L. O. 2023. 'Alternatives for reductionist approaches to comparative Bantu grammar' *Linguistique et langues africaines* [Online], 9(1).



Parameters of Bantu Morphosyntactic Variation  
Draft Master List

Gerdien, Rosette, Hannah O'Brien, Françoise Evenshuis-McNeill, and Lutz Marten, 2017. Parameters of Bantu morphosyntactic variation: Draft master list. Akiba version, last amended 21 Dec 2017. Linguistics Project: Morphosyntactic Variation in Bantu. (Typical content and design). Akiba 2018 is hereby gratefully acknowledged.

**1 Nouns and processes**  
1. Shape of the argument: What is the shape of the argument?  
note: reduction  
Does it agree in the language  
- 1 person only  
- the argument is expressed only rarely

## 本研究課題の狙いと潜在的貢献

- 狙い（本丸）：言語変化に関する仮説を設定して、
  1. それぞれの言語の記述的観察に秩序を与える
  2. 複雑な個別言語の情報を（可能な限り）損失なく類型論的議論でも把握できるようにする
  3. 言語変化に関する仮説に対応する「参照点」を設定して、1, 2を可能とする
- 潜在的貢献（おまけ）：
  - 言語変化に関する仮説が、複数の記述的・類型論的観察とつじつまが合うなら、その変化が実際に生じた蓋然性が高いと考えられる
  - こうした仮説を提示することで、バントゥ諸語に生じた／生じている言語変化を解明できる

## 本研究課題の計画

1年目（2024年度）：プロジェクトの見通しの共有

- バントゥ系言語の記述や系統内類型論のトレンドの確認
- 先行研究の「縦のシナリオ」の検討  
(例：Devos, M & J. van der Auwera. 2013. 'Jespersen cycles in Bantu: double and triple negation'. *JALL* 34(2). 205-274.)

2, 3年目（2025, 2026年度）：あらたな仮説の検討、成果の発表

- 研究テーマの候補：主題標識から主語標識への変化、関係節形成に関わる形態統語特徴の記述、動詞の自他交替、TAM標識の文法化、声調と統語論のインタフェイス
- 国際WSの開催：「縦のシナリオ」を適用した個別言語の記述、類型論的分析の提示 (AA研, 11th International Conference on Bantu Languages)
- 成果集（「縦のシナリオ」（仮説）＋「参照点」＋データ）の出版

## 謝辞

この研究は、JSPS科研費（23H00622, 24K16047）の助成を受けています。

## 参考文献（本文に記載のあるもの以外）

- Alnet, Aimee Johansen. 2009. *The clause structure of the Shimaore dialect of Comorian (Bantu)*. Doctoral dissertation. University of Illinois.
- Beaudoin-Lietz, Christa, Derek Nurse, & Sarah Rose. 2004. Pronominal object marking in Bantu. In Akinbiyi Akinlabi & Oluseye Adesola (eds.), *Proceedings of the 4th World Congress of African Linguistics*, 175–188. Cologne: Rüdiger Köppe.
- Bernander, Rasmus. 2017. *Grammar and grammaticalization in Mañda: An analysis of the wider TAM domain in a Tanzanian Bantu language* (Doctoral dissertation). University of Gothenburg.
- Devos, Maud. 2008. *A grammar of Makwe: Palma, Mozambique*. München: Lincom Europa.
- Furumoto, Makoto. 2015. On the copula in the Kikae dialect of Swahili. *Swahili Forum* 22, 20–41.
- Furumoto, Makoto. 2022. Clues about functional development of the Kimakunduchi copula. *Working Papers in African Linguistics* 1, 29–51.
- Furumoto, Makoto, forthcoming. The grammaticalisation of Kimakunduchi demonstratives: Insights into the emergence of post-stem object markers in Bantu. In James Essegbey, Brent Henderson, Fiona McLaughlin, Michael Diercks (eds.) *Pushing the boundaries: Selected papers from the 51–52 Annual Conference on African Linguistics*.
- Givón, Talmy. 1976. Topic, pronoun and grammatical agreement. In Charles N. Li (ed.) *Subject and Topic*, 149–188. New York: Academic Press.
- Kraal, Pieter Jacob. 2005. *A grammar of Makonde (Chinnima, Tanzania)*. Doctoral dissertation. Leiden University.
- Mario, Michael R. 2015. On the number of object markers in Bantu languages. *Journal of African Languages and Linguistics* 36(1), 1–65.
- Marten, Lutz, Nancy C. Kula, & Nhlanihla Thwala. 2007. Parameters of morphosyntactic variation in Bantu. *Transactions of the Philological Society* 105(3), 253–338.
- Patin, Cédric, Kassim Mohamed-Soyir & Charles Kisseberth. 2019. Ngazidja G44a. In Mark Van de Velde, Koen Bostoen, Derek Nurse & Gérard Philippson (eds.) *The Bantu Languages*. 2nd ed., 591–614. London: Routledge.
- Ström, Eva-Marie. 2013. *The Ndengeleko language of Tanzania*. Doctoral dissertation. University of Gothenburg.
- 米田信子. 2000. 「マテング語の記述研究（バントゥ系、タンザニア）：動詞構造を中心に」（博士論文）東京外国語大学。

## コンゴ・スワヒリ語の幾つかの特徴

### —スワヒリ語 micro-variation 調査に関連して—

Some features of Congo Swahili in reference to the micro-variation way of survey

梶 茂樹

京都産業大学ことばの科学研究センター &

東京外国語大学 AA 研フェロー

#### 1. 始めに—micro-variation 調査の利点と問題点

私は micro-variation の調査項目を文法調査表の一種だと見ている。AA 研では 1970 年代 80 年代に世界の様々な言語を対象に文法調査表の作成を目指して共同研究プロジェクトが進んでいた。湯川「バントゥ諸語文法調査票試案」(1977) も、そういった中での研究の成果の 1 つである。

時間は進み、その間いくつかの文法調査表が作成されたが、Micro-variation のものはバンツ一系の言語に特化した調査も進展したことから、調査項目には、若手研究者には自分の知らなかったことや、知ってはいてもあまり注意を払ってこなかったことが多く書かれており、研究にとって有益なことが多い。しかし項目を埋めることを目標にしてはいけない。自分の研究にとって足しになるぐらいの気持ちでやること。

micro-variation 方式の調査の問題点は、自分が知っていることしか聞いていないということである。例えば、スワヒリ語で「数字の 9 は何と言いますか」というようなことは、tisa しか知らなければ聞くことができない。学校文法では 9 は tisa と習うが、スワヒリ語の多くの地域で kenda と言うのである。従って、micro-variation の調査項目には聞き漏らしていることが多くある。重要なことは言語、方言を多く、そして深く知ること。

本発表では、こういったことを念頭におきながら、コンゴ・スワヒリ語の幾つかの特徴について述べる。

#### 2. コンゴ・スワヒリ語の話される地域

コンゴ・スワヒリ語は概略ロマミ川より東部地域に話される。報告者がよく知るのはキブ地方のスワヒリ語であり、ここではコンゴ・スワヒリ語とはキブ地方のスワヒリ語を指すことにする。地図参照。

#### 3. 発音

##### 3.1. j>y

a.	moya	moja	one
b.	mayani	majani	grass
c.	yulu	juu	above
d.	kuyua	kujua	to know
しかし e.	kujenga		to construct
f.	juu ya nini		why
g.	juzi		the other day
h.	kinywaji		drink
3.2. VV > VIV, OV > OIV			
a.	lufungulo	ufunguo	key
b.	kwikala	kukaa	to stay
c.	kulomba	kuomba	to ask
d.	kufula	kufua	to wash
3.3. g > ng			
a.	mangaribi	magharibi	evening, west
b.	munganga	mganga	doctor
c.	mungini	mji	village
3.4. v > f			
a.	ngufu	nguvu	strength
b.	lichafu	shavu	cheek
3.5. a.	a <sup>k</sup> sante, akisanti	asante	thank you
4. 名詞のクラス			
4.1. 名詞接頭辞			
1.	mutu	2. batu	person
3.	muti	4. miti	tree
5.	lisikio	6. masikio	ear
	libega	mabega	shoulder
	liyai	mayai	egg
7.	kitabu	8. bitabu	book
9.	nyama	10. nyama	animal, meat
	mbuzi	mbuzi	goat

cf. inje			outside
ine			four
inzi			fly
inchi			country
11. lukamba	10	kamba	rope
lufungulo		funguo	key
12. katoto	13	tutoto	small child
kanyumba kadogo		tunyumba tudogo	small house
14. bugonjwa			sickness
bunga			flour
15. kupiga			to beat
16. (pa)			
17. ku nyumba			at home, at a/the house
18. mu nyumba			in a/the house
19. hitoto	(13	tutoto)	very small child

#### 4.2. 形容詞のクラス固定

a.	mutu muzuri	good person
	nyama muzuri	good meat
	chakula muzuri	good food
b.	mutu mubaya	bad person
	macho mubaya	bad eyes
c.	chakula butamu	tasty food
	nyama butamu	tasty meat
c.	mutu kidogo	small person
	kitu kidogo	small object
	bunga kidogo	small quantity of flour
d.	batu mingi	many people
	saa mingi	many hours
	mali mingi	much money, fortune
e.	Jua iko makali	the sun(shine) is strong
	mutu makali	fierce person

f.	mutoto yangu, batoto yangu	my child
	kitabu yake	his/her book
g.	hii lino	this tooth
	hii muti	this tree
	ile kitu	that thing

#### 4.3. 場所表示

ku meza	on a table
ku kiti	on a chair
ku masoko	at school
ku uso	at the face
mu kinywa	in the mouth
mu tumbu	in the stomach
mu nyumba	in the house
mwa hii mfiga	in this house
mwa hii mwaka	in this year

cf. -ni 用いない。ただし mungini, mingini “village”

#### 4.4. connective **ya** の使い方：比較・対照の意味合い

- |    |  |  |
|----|--|--|
| a. | mutu ya muzuri   | person who is good                                       |
| b. | ngozi ya mweusi  | the black skin, compared to that which is not (so) black |
| c. | Hii bugonjwa ni ya kuambikiana mbio This disease is a quick-transmissible type |  |

### 5. 文法

#### 5.1. 単音節動詞なし

a.	kukuya	kuja	to come
b.	kukufa	kufa	to die
c.	kukula	kula	to eat
d.	kukuwa	kuwa	to be, to become

#### 5.2. 現在形

mínaenda	tunaenda
unaenda	munaenda
anaenda	banaenda



- c. batu benyi balifika                      people who arrived
- d. chakula yenyi nitakula                      food that I will eat
- e. mutoto mwenyi ninayua mama yake                      child whose mother I know

#### 5.10. 命令形

- a. kuya!              T: njoo!                      come!

#### 5.11. njoo <ndio

- a. Yeye njoo mwenyi alikuya jana.                      It is he that who came yesterday.
- b. Ni yeye njoo alisema                      It is him/her that said.
- c. Katikati ya hii mbili, ya wapi njoo ya kweli?                      Which is the real among these two?
- d. Si njoo kijulisho ya kweli?                      Is it not the real proof?

#### 5.12. 独立代名詞 < clitic

- a. weka ayo ndani ya mufuko!                      Put that in the pocket!
- b. sítakula ayo                      I will not eat that
- c. fanya ayo hivi!                      Do that in this way!
- d. franga, uko nayo?                      Money, do you have some?
- e. kitu ya kucheza nayo                      object to play with
- f. byenyi uko nabyo                      things that you have
- g. kibambazi inakatika amo                      The wal is sprung
- h. kitu ya kuweka amo mayi                      water recipient
- i. ataenda ako                      He/she will go there

### 6. 単語

#### 6.1. 違う単語

- a. mwami              mfalme                      king
- b. kenda              tisa                      nine
- c. kilalo              daraja                      bridge
- d. mwaka              umri                      age
- e. kinga              baiskeli                      bicycle
- f. motogari              gari                      car, automobile
- g. sombe              kismvu                      (young) cassava leaves
- h. kikwembe              kanga                      waistcloth
- i. singa              waya                      wire

j.	masomo	skuli, shule	school
k.	kuume	kulia	right
l.	siku ya kwanza	jumatatu	Monday
	siku ya pili	jumanne	Tuesday
	siku ya tatu	jamatano	Wednesday
	siku ya ine	alhamisi	Thursday
	siku ya tano	ijumaa	Friday
	siku ya posho	jumamoshi	Saturday
	siku ya Mungu	jumapili	Sunday
m.	jamaa	familia	family
n.	mbele	kabla	before (time)
o.	mbio	haraka	fast, quickly
p.	kuivya	kuiva	be ripe, cooked

## 6.2. 親族名称

a.	dada yangu	my sister (used by brothers)
b.	kaka yangu	my brother (used by sisters)
c.	mukubwa yangu	my elder brother (used by brothers), my elder sister (used by sisters)
d.	bibi yangu	my wife
e.	taté	grandfather, grandmother

## 6.3. フランス語

a.	biló (Fr. bureau)	office
b.	byus (Fr. bus)	bus
c.	franga (Fr. franc)	money
d.	kiliyá (Fr. client)	customer
e.	gendarme (<Fr. gens d'arme)	policeman
f.	sodá (<Fr. soldat)	soldier
g.	letá (<Fr. l'état)	state
h.	tomati (<Fr. tomato)	tomato
i.	shu (<Fr. chou)	cabbage
j.	matabishi (?Prt. matar "kill", bicho "insect")	gift, bribe

#### 6.4. 同じ単語だけど意味が違うもの

- a. kopo cup (T: waste can)
- b. kilauri glass (T: bilauri “tin tumbler”)
- c. ndizi plantain (T: banana)
- d. nyanya eggplant (T: tomato)
- e. kuuza to buy (T: to sell)
- cf. kuuzisha “to sell”

#### 6.5. ローカルな単語

- a. kasíkisi banana beer
- b. mutobe banana juice
- c. kanyanga distilled alcohol, spirit
- d. kisamunyu beer-making banana

#### 参考文献

- Kaji, Shigeki 1985 *Deux Mille Phrases de Swahili tel qu'il se Parle au Zaïre*. African Languages and Ethnography Vol.19, 東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所.
- 梶 茂樹 2002 「スワヒリ語はなぜザイールにまで広まったのか-その構造から探る-」, 『現代アフリカの社会変動-ことばと文化の動態観察』(宮本正興・松田素二編), 人文書院, pp.134-149.
- 梶 茂樹 2007 「コンゴ・スワヒリについて、その1 : 英語からの借用とフランス語からの借用」, 『スワヒリ&アフリカ研究』第18号, 大阪外国語大学地域文化学科スワヒリ語・アフリカ地域文化研究室, pp.64-74.
- Kaji, Shigeki 2019 “How Did Swahili Expand as Far as Eastern Congo? An Account From its Structural Basis”. *Swahili Forum* 26 : 166-180.